

| | | | | |
|--|---|-------------|---------------------|-----------------------------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 相談援助実習Ⅱ Social Work Practicum Ⅱ | | 2年 | 集中（後期） | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 3単位 | 実験実習 | 選択 | (社会福祉士国家試験受験資格取得必修) | 相談援助実習Ⅰ、相談援助実習指導Ⅲ単位取得者、他フィールド履修不可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 社会福祉士受験資格指定科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 社会福祉士受験資格指定科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス |
| 中島佳子 大熊信成 | | 栄養棟3階、福祉棟3階 | 各教員から説明します | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 「相談援助実習Ⅱ」では、相談援助における実習指導者の職種の位置づけと業務内容を全般的に理解することをめざす職種実習と実習指導者のソーシャルワーク実践の実態を理解し、実習生自らがソーシャルワーク実践を試行することをめざすソーシャルワーク実習を行う。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ① 相談援助職の業務の実際を学び、説明できるようにする。 ② 相談援助職と他職種との連携を学び、例証できるようにする。 ③ アセスメントを行い、援助計画を作成できるようにする。 ④ 社会福祉士として求められる資質・技能。倫理を習得し、発展できるようにする（臨床実践につなげる）。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 福祉現場における実習 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| 対象者理解につとめ、対象者の人生や生活に視野を広げ、援助計画を考えることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | 配属された各施設・機関において18日間（144時間以上）の実習を行う。 | | | |
| 第2回目 | ・配属先は、原則的に実習生が希望と居住地、自らの実習計画を参考に実習生が選択し、教員と相談の上、決定する。 | | | |
| 第3回目 | ・実習1か月前には実習施設・機関へ事前訪問を行う。 | | | |
| 第4回目 | ・実習中は実習指導者の指示に従い、スーパービジョンを受ける。 | | | |
| 第5回目 | ・記録を毎日作成し、期限までに実習指導者へ提出する。（最終日には、全記録を実習指導者へ提出する） | | | |
| 第6回目 | ・実習終了後は、18日間の学びを「評価とまとめ」として作成し、実習指導者へ提出する。 | | | |

| | |
|-------|--|
| 第7回目 | ・実習中、実習指導教員による指導が巡回または帰校日により計3回行われる。 |
| 第8回目 | 【実習予定施設・種別】社会福祉協議会・介護老人福祉施設、デイサービス、障害者支援施設等。 |
| 第9回目 | |
| 第10回目 | |
| 第11回目 | |
| 第12回目 | |
| 第13回目 | |
| 第14回目 | |
| 第15回目 | |
| | |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|------|---|
| 授業参加態度 | | |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | 100% | 出勤状況、実習態度、実習巡回指導、実習指導者の評価、記録などにより総合的に評価する |

教科書と参考図書

相談援助実習指導Ⅲと同じ（詳細は授業の初めに指示します）

履修上の留意点・ルール

実習生としてのマナーやルールを順守し、実習に適した態度で実習に臨むこと。